



地方からのホットライン（令和7年3月）



今回は、前回の映画の話に引き続き、「私のイチ推し女優」というテーマでお書きいただき、それぞれに楽しい文章をお寄せいただきました。それぞれの方の原稿を読ませていただき大変驚いたのは、意外というか、あるいは当然というべきか、多くの方が吉永小百合さんをイチ推しに挙げておられたことです。皆さん、正にサユリスト世代なんですね。

● 相良 直哉さん(宮城県仙台市在住)

私のイチ押しの女優は、吉永小百合さんです。吉永さんの映画を全て観ている訳ではありませんが、他の人は思い浮かびません。大学生の頃に観たNHKのTVドラマ「夢千代日記」(1981年2月15日～第一話放送)がそのキッカケです。吉永さんは、山陰の鄙びた温泉の芸者置屋のおかみさん役で出演していました。40代の頃、職務で島根県を担当、顧問の先生を探すことから仕事を始めましたが、夢千代日記の話題で懇意になった先生から顧問を引き受けていただく契約をいただけた思い出があります。吉永小百合さんのドラマが、私にプラス思考をもたらし、積雪の山陰での活動の後押しをしてくれました。

● 金子 幸雄さん(山形県山形市在住)

十代後半から二十代前半にかけて高倉健のヤクザ映画が好きで、よく東映に行きました。その頃の映画で着物姿がよく似合う控えめな役を演ずる藤純子の大ファンに。特に『昭和残侠伝・死んで貰います』の妖艶な芸者姿にうっとり。スクリーンからそのまま飛び出してきて「金子さん一杯いかが」とか「金子さんて素敵ね」とか「金子さんのような男の人が好きよ」なんて言われたら・・・などと落語の「湯屋番」の若旦那よろしく妄想に耽ったものでした。(実は、1位は吉永小百合、2位は大原麗子で、藤純子は3位です)

● 丹野 智彦さん(福島県安達郡在住)

「推しの女優さんを…」との原稿を依頼されましたが、映画好きだった私ですが、お気に入りの原作者や監督の作品を中心に観ていたもので、出演俳優さん、特に女優さんは気にしておりませんでした。その為に、特に「推しの女優」は思い浮かびせん。

ただ、私が宮城県出身の為か、宮城県出身の「篠ひろ子さん」「鈴木京香さん」「大島蓉子さん」などが出演している映画やドラマは、何となく応援しながら観ております。

● 吉羽 文雄さん(埼玉県さいたま市在住)

過去、青春時代を振り返っても「イチ推し」という女優さんはいませんでした。サユリストの時代でしたが、邦画はほとんど観ていなかったのも特別の思い出はありませんでした。一人挙げるとすれば、「音無美紀子さん」です。飾らなく、肩の凝らない「ほんわか感」がよいと思っていました。脇役が多かった女優ですが、ずっと見惚れていました。

テーマ外ですが、歌手なら「森高千里さん」が私の好みです。

● 堤 満弘さん(長野県長野市在住)

思い出の映画女優としては吉永小百合が断トツで存在する。1950年代は各家庭にTVは無く、ラジオドラマ全盛の時代だった。1957年に「赤胴鈴之助」が放送開始され、吉永小百合は小6、私は小4だった。初回放送での棒読みのセリフが衝撃的で今でも覚えている。その後、映画に出るようになり、浜田光男や和泉雅子と青春映画の時代を築き、「キューポラのある町」「泥だらけの純情」の他、石坂洋次郎作品を観て楽しんだ。吉永小百合は青春時代の思い出の「友」である。

● 影山 皓一さん(静岡県浜松市在住)

(今月は、影山さんの分は、先月2月1日に奥さまを亡くされた由で休載となります。
さぞお力落としのことと存じます。心よりお悔やみを申し上げる次第です)

● 早川 正英さん(愛知県愛知郡東郷町在住)

私の「イチ押し女優」は、「男はつらいよシリーズ」に登場するリリー役の浅丘ルリ子です。旅回りのキャバレー歌手・リリーと寅さんの甘く切ない空気感(どの作品にも言えますが…)とリリーの歯に衣着せぬ物言いが魅力的です。「いいわよ、私みたいな女でよかったら…」の濃厚スイートなセリフは、リリーだから言えるセリフ。寅さんの理想の結婚相手アンケートで75%が「リリー」というのも頷けます。単身赴任時代、東京に暮し、柴又帝釈天参道や江戸川沿いを歩くたびに感じた昭和の匂いを懐しく思い出します。

● 渡邊 洋二さん(愛知県春日井市在住)

吉永小百合が「イチ推し」の映画女優です。彼女の映画は数多視聴しましたが、とりわけ「フーテンの寅・柴又慕情」と「青春の門」が忘れられません。寅さんと同様に若々しい笑顔のマドンナ・歌子に魅せられ、「青春の門」では一人息子を育てながら、亡き夫を慕って自慰をする吉永さんの苦悩の表情にくぎ付けになりました。清純派の小百合さんが大胆な濡れ場も演じる大人の女優に成長されたことに驚嘆するとともに、一抹の寂しさも感じた瞬間でした。

● 三好 進さん(愛媛県松山市在住)

私にとって「2位、3位は要りません」、吉永小百合が「イチ推し」です。同世代(同学年)のサユリストとしては、この人以外は考えられません。「キューポラのある町」でブルーリボン主演女優賞を受賞、今や124本の映画に出演して大女優になりました。

私としては、晩年の作品より青春映画が好きで、「若い二人」(昭和62年作)で女子高生を演じ、教師役の石原裕次郎に恋心を抱き、女性教師の恋人役・浅丘ルリ子に対抗する多感な女子高生役の吉永小百合が可愛かったですね。この映画を観て、教師になるなら女子校の先生になるべきだと思いました(笑)。